

巻頭言

AASM スコアリングマニュアル日本語版：第3版

榎本 みのり

日本睡眠学会 準機関誌編集委員会 編集委員
東京工科大学医療保健学部臨床検査学科

少し前までの睡眠段階の判定には、その当時の最新の研究成果をもとに作成された R&K ルール (Rechtschaffen and Kales による国際判定基準, 1968 年) が、約 40 年にわたり用いられてきました。呼吸や覚醒反応など睡眠中に生じる各種イベントについては、AASM (その前身である ASDA を含む) から個別に提示されてきた判定基準を用いて解析を行っていました。

こうした背景のもと、PSG 解析に関するルールを最新の知見に基づいて 1 つにした “The AASM Manual for the Scoring of Sleep and Associated Events” が 2007 年に刊行されたことは、睡眠計測および PSG 解析の歴史において画期的な出来事であったといえるかと思えます。日本語版である『AASM による睡眠および随伴イベントの判定マニュアル』が 2009 年に出版されたことも、本邦の睡眠医療・研究の発展に大きく寄与しました。

昨年 (2025 年)、広島で開催された日本睡眠学会第 49 回定期学術集會に合わせて、『AASM スコアリングマニュアル日本語版：第 3 版』(米国睡眠医学会著、日本睡眠学会 翻訳、ライフサイエンス出版) が上梓されました。AASM のオリジナル英語版は 2023 年 2 月に発表されており、日本語版を心待ちにされていた方も多かったことと思います。これまで AASM スコアリングマニュアルは ver.2.0 から 2.6 までアップデートが重ねられてきましたが、今回 ver.3.0 への改訂が行われました。

マニュアルが最新のエビデンスに基づいて更新されていくことは必然ですが、診療や検査に携わる立場としては、日々の業務のなかで、都度、更新される最新情報を正確に把握することは容易ではありません。本号では、学会シンポジウム「AASM スコアリングマニュアル日本語版：第 3 版のポイントと理解を深める」にご登壇された先生方を中心に、改訂の要点を改めて整理していただきました。

本号が出される頃には、日本睡眠学会の認定試験を控えている先生方も多いことと思います。本特集、連載が、皆様の日常診療および検査業務の一助となれば幸いです。